

ベストプラクティス事業の3事例目として、  
(特非)メタセコイアの森の仲間たちより、興膳健太さんにお話を伺いました。



**事業名**  
▶ 鳥獣被害対策における中間支援組織の育成・提言・ネットワーク化

**助成内容**  
▶ 2014～2018年度 フロントランナー助成

**助成金額(千円)**  
▶ ('14)5,877 ('15)6,698 ('16)7,399 ('17)7,444 ('18)6,225

**(特非)メタセコイアの森の仲間たち**

管理事務所 ▶ 〒501-4601  
岐阜県郡上市大町大間見307番地

T E L ▶ 050-5241-1635

E - m a i l ▶ staff@metamori.org

U R L ▶ http://furusato-kemono.net/



## 細やかな気遣いで担い手を育て 広がっていくネットワーク

### 1. 活動について

#### 獣害対策の担い手を育成しながら 全国的なネットワークを構築

メタセコイアの森の仲間たちは、キャンプ場や林間学校における自然体験プログラムなどの支援を行うNPOです。イノシシ、シカ、クマなど野生動物の被害の拡大に伴い、2006年より、新たな活動として各地域の獣害対策団体を繋ぎ、ネットワークづくりを開始しました。狩猟や駆除にとどまらず、野生動物を産業・観光などの地域づくり

の資源として活用することが目標です。2014年、全国1745の市町村へのアンケートと専門家へのヒアリングを実施し、獣害対策の課題を明確にしたうえで、2015年に獣害対策白書を発行しました。さらに同年より、岐阜、新潟、千葉、山梨の全国4地域で「けもの塾」という獣害対策の担い手を育成するための研修を

実施。2017年度までに200名以上が受講しています。2018年には全国13団体にネットワークを広げ、全国の中間支援組織を結ぶ「ふるさとけものネットワーク」を設立。全国の鳥獣被害対策の担い手育成を加速させています。



今必要とされる獣害対策を提案



「集落環境診断」で地域の被害の共有や今後の計画を立てる

### 2. 活動の成果と助成金の活用方法

#### 研修生への丁寧なフォローアップにより、 「けものまち医者」を全国へ

獣害対策に課題を抱える地域・団体を結び、人材育成を担う「けもの塾」を通して、獣害対策を仕事とする「けものまち医者」を育てる。それが活動の主な目的です。「けものまち医者」とは、獣医ではありません。野生動物の生態を知っており、被害を分析したうえで、獣害対策の知識や技術を活かして、効率の良い捕獲の方法など最適な処方箋を地域に提供できる。いわば、地域に合わせた獣害対策のかかりつけ医です。

「こうした人材育成に欠かせないのが、手厚いフォローアップです。「けもの塾」の受講生がそれぞれの地域に戻ったとき、研修で学んだ内容を地域に落とし込め際にアドバイスなどの依頼があれば、全国どこへでも出かけます。その機会に各自治体の獣害対策担当者とも会ってネットワークを広げています。こうした活動ができるのも、助成金のおかげです。」(メタセコイアの森の仲間たち・興膳健太さん)

全国規模でのネットワークづくりの成果として、2018年、支援していた2つの団体・自治体が農林水産省の生産局長賞を受賞しました。受賞した自治体の担当者は「けもの塾」に参加しており、

獣害対策を担う人づくりが評価されたものです。また、野生動物に関する就職情報をオンラインで発信する「けものJOB」の開設、各地域の猟友会との連携など、獣害対策のネットワークは新たな広がりを見せています。



電気柵の設置方法など現場で一つずつ学んでいく

#### 活動のポイント

##### SNSでつながる研修生の学び合い

「けもの塾」の参加者は、3～4泊の研修の中で親睦を深め合い、研修が終わった後もSNSを使ってコミュニケーションを取り合っています。その中で、互いの知らない情報や新しい気づきを共有することも。研修を受けて終わりではなく、その後もフォローアップを通して、研修生相互の学び合いができる場を提供することが大切です。こうして育った研修生たちが、「けものまち医者」として地元に着したアドバイザーになっていくのです。(興膳健太さん)



### 3. 助成終了後の活動

#### 中山間地域の振興を目指して、 「クラウドハンター」「けもの検定」を実行中

「けもの塾」を軸とした中間支援組織の育成に加え、今後全国へ獣害対策を展開する新しい試みとして、「クラウドハンター」があります。獣害対策が必要とされる地域の多くは、過疎や高齢化が進む中山間地域です。こうした地域を盛り上げていくための取組みを始めました。

「クラウドハンター」は、罠猟の基本を学び、実際に山の中に入って罠と赤外線カメラを設置します。後日獲物が掛かると、赤外線カメラからリアルタイムで罠の状況についてメールが届き、参加者はオンライン上で交流しながら罠の設置場所の調整な

どを行うことができるのです。従来の罠猟は毎日現場を見回る必要がありましたが、「クラウドハンター」なら都市にいながら罠を体験することができ、都市と中山間地域との新しい繋がりも生まれます。

「金曜日の夜に獲物が掛かった映像が参加者へメールで配信され、翌朝4人が現地に集まったこともあります。外部から人が訪れると、地元も盛り上がりですね。いわゆる狩猟ツーリズムを通して、中山間地域を活性化し、新しい獣害対策の担い手も育てていくのが、「クラウドハンター」の狙いです。」(興膳健太さん)



講師により捕獲方法が説明されている様子



設置したカメラでシカが撮影された

#### 基金担当者から

獣害被害に悩む地域の人たちと繋がり、一人一人の担い手を丁寧に育成していくことで、同じ方向を向いて獣害対策に取り組む人が全国に増えていく。岐阜から生まれた「ふるさとけものネットワーク」の輪が、今後もさらに広がり続けていくことを期待しています。(地球環境基金 大里)

